

はみんぐだより

2025 年 12 月分

新しいインフルエンザワクチン（修飾 mRNA ワクチン）

御利用者様および御家族様には、日頃大変お世話になっております。

今回の話題は、インフルエンザワクチンの話題です。毎年冬場になると世界中でインフルエンザが猛威を振ります。特に御高齢の方が感染なさると、お命にかかります。このため、当施設でも毎年10月から11月にかけて、御入所の皆様方にワクチン接種を実施させていただいております。従来のインフルエンザワクチンは、鶏(にわとり)の受精卵から作ります。つまり普通の卵ではなく、ワクチン製造用に特別に卵を確保しておかなければなりません。この卵を孵化(ふか)させ、ここでウイルスを培養し、ワクチンを作ります。製造できる量が限られます。ニュースで時々報道されますように、鶏(にわとり)に鳥インフルエンザが流行すると大量に処分されます。そうすると食卓の卵の値段が上がりますが、ワクチン製造用の卵も不足します。必要な量のワクチンを作ることが出来なくなります。ここ数年でも、「ワクチンが足りない」というニュースが何回も出ています。

そこで今回の話題です。コロナワクチンの延長線上の技術です。ニューイングランドジャーナルの 11 月 20 日に掲載されていた論文です。コロナワクチンは画期的な発明です。世界で初めてメッセンジャーRNA 技術を使用したウイルスが製造され、世界中で使用されました。皆様方も接種なさったと存じます。なぜ世界中で接種できたかというと、大量生産が可能だからです。ついでに申し上げますと、コロナには DNA を使用したワクチンもありましたが、副作用があり日本では全く使用されませんでした。さて、論文の内容に入ります。2022 年から 2023 年のインフルエンザシーズンに、18 歳から 64 歳の 18476 人の方に行った試験です。米国、南アフリカ、フィリピンで行いました。9225 人に今回の修飾 mRNA ワクチンを接種。9251 人に従来のワクチンを接種。接種する側も接種された方も、どちらのワクチンかは分かりません。これをブラインド試験といいます。インフルエンザにかかってしまった方は、修飾 mRNA ワクチンで 57 人 (0.63%)、従来のワクチンで 87 人 (0.95%) でした。これは非劣性(劣っていない)よりも優位性(効果が高い)という結果です。従来のワクチンは 44-54% の有効性があるとされているので、ワクチンを打たない方と比べたら 60-70% の有効性があったと考えられます。(これはあくまでの計算上のことです。正確にはワクチンでなく、偽薬で検査をしなければいけませんが)

インフルエンザにはいくつも形(サブタイプ)があります。毎年、ワクチンは中身(遺伝子)を変えていきます。今回、A/H3N2(香港型と呼ばれます)、A/H1N1(2009 年に大流行した豚インフルエンザ)、B/ビクトリア(B 型インフルエンザの代表です)、B/山形という 4 つの形(サブタイプ)に対してのワクチンです。これは、日本で使用されているワクチンと同じです。でも、実は修飾 mRNA ワクチンは、どの形(サブタイプ)のインフルエンザにも効果が出るように作ることもできます。

副作用についても比較しています。注射部位の痛みなど局所の反応は、修飾 mRNA ワクチン 70 %、従来型 43 %、倦怠感は、修飾 mRNA ワクチン 52 %、従来型 34 %、筋肉痛は、修飾 mRNA ワクチン 30 %、従来型 10 % でした。つまり、皆様方がコロナワクチン接種で御経験なさったと同じように、「痛い」「熱が出る」「筋肉痛がある」という結果でした。体内での反応が強いのでしょうか。

まとめますと、新しい修飾 mRNA ワクチンは、良い点として、安定期に大量生産ができること、卵アレルギーの方でも問題なく使用できること、従来のワクチンより効果が高いことでしょう。悪い点としては、今までのワクチンより痛いことでしょうか。今回は第 3 相という試験です。値段の問題、政治的な問題はあるかと思いますが、2-3 年後には従来のワクチンを駆逐するように思います。この分野も米国の独壇場です。ちなみに、このワクチンは、コロナと同じく「筋肉注射」です。

今後とも 老健施設はみんなを宜しくお願い申し上げます。

2025 年 11 月 20 日 かめたに ひろし